

日本循環器学会による循環器疾患実態調査(JROAD)に参加した医療機関に大動脈弁狭窄症で入院・治療された患者様・ご家族様へ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、日常診療で得られた以下の診療情報を研究データとしてまとめるものです。研究のために、新たな検査などは行いません。また患者様・ご家族様が個人的に健康に関する新たな情報を得ることはありません。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合は、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。お申し出による不利益は一切ありません。

**【対象となる方】** 2012年4月1日～2022年3月31日の間に日本循環器学会が実施する全国循環器疾患実態調査(JROAD)に参加した医療機関にて大動脈弁狭窄症で入院・治療された患者

(参加施設一覧：[https://www.j-circ.or.jp/jittai\\_chosa/media/facility\\_2021.pdf](https://www.j-circ.or.jp/jittai_chosa/media/facility_2021.pdf))

### **【研究課題名】**

本邦における経カテーテル大動脈弁置換術と外科的大動脈弁置換術の院内アウトカムの経時的変化についての多面的研究、および併存疾患及び院内合併症が中長期予後に与える影響についての研究

**【研究責任者】** 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 医長 高木健督

### **【研究の内容】**

本研究の目的は、本邦における大動脈弁狭窄症の臨床像、治療内容の選択（経カテーテル大動脈弁置換術と外科的大動脈弁置換術）および併存合併症が、院内アウトカム（術後の予後、合併症の発生、入院日数、診療費院）に与える影響を明らかにする事です。また、大動脈弁狭窄症術後の薬物療法の現状を明らかにし、その中長期予後に与える影響を解明します。さらに、術後合併症の中長期予後へ与える影響、希少な術後有害事象（感染性心内膜炎、心筋梗塞）の発生頻度を明らかにすることを目的にしています。

DPC データを包括的に検討することで、大動脈弁狭窄症の患者様における、糖尿病や不整脈といった併存疾患が手術に与える影響、大動脈弁狭窄症に対する治療介入の問題を明らかにし、至適薬剤の確立・将来の事故予知に繋がる可能性があります。本邦のビッグデータを用いることにより、単施設ではこれまで困難であった解析が可能となり、診療に応用可能なエビデンスの創出に繋がるものと期待しています。

**【利用する診療情報】** 参加施設から日本循環器学会循環器疾患実態調査へ提供された以下の情報  
臨床特徴（年齢、性別）と医療情報（入院日、保険点数）、入院時併存疾患、主傷病等、手技内容、入院中合併症、退院後合併症、薬剤情報、検査内容などの情報

### **【情報の管理責任者】**

国立循環器病研究センター 理事長

**【研究期間】** 研究許可日より 2030年3月31日まで（予定）

### **【個人情報の取り扱い】**

収集したデータは、JROAD事務局である国立循環器病研究センター情報利用促進部にて、厳重な管理のもと保

存されております。本研究で使用する情報も、個人を特定できないよう加工されており、個人情報が漏洩する危険はありません。

【問合せ先】 国立循環器病研究センター 心臓血管内科 医長 高木健督  
電話 06-6170-1070(代表)